令和7年度教育研究改革・改善プロジェクト 採択一覧（採択件数：7件、総額2,479千円）

代表者名	所属	プロジェクト名称	プロジェクト概要
神代 健彦	教育学科	「特別の教科 道徳」の実践的指導力形成に資する映像教材の開発	このプロジェクトは、大学教員と附属学校教員の協働により、教員養成課程および教職大学院において学生・大学院生に「特別の教科 道徳」（道徳科）の実践的指導力を保障するための映像教材制作を目的とする。下記①②③を作業課題として、学部教育と教職大学院教育の双方を意識した、初等部（小学校低中学年相当）と中等部（小学校高学年・中学校相当）の計2本の道徳科映像教材を制作する。 ① 道徳科授業実践の遂行に最低限必要な／発展的なコンピテンス／パフォーマンス（例：有効な指示・発問、状況に即したタクト）の同定 ② 上記①を具体的に示す授業の開発・実施と動画撮影 ③ 上記②動画の理論的・実践的分析および解説等の作成（映像教材化）
伊藤 駿	総合教育臨床センター	災禍におけるインクルーシブ教育の構築に向けた国際共同研究—日本の地震災害とウクライナ戦争の事例から—	本研究は、日本の地震災害およびウクライナ戦争という異なる災禍の中で、障害児とその周囲が直面した困難を明らかにし、教育的支援の在り方を検討する国際共同研究である。特別支援学校等への聞き取り調査を通じて、災禍における障害児の権利保障と支援構造の課題を把握し、教育現場への実践的示唆を導出する。成果はD-EST京都構想をはじめとする政策提言・研修を通じて社会に還元され、本学における教育研究の改革にも寄与する。
小栗 優貴	社会科学科	高等学校を見据えたシティズンシップ教育としての中学校キャリア教育の開発	キャリア教育の充実化が図られ、多数の研究実践が蓄積されてきた。一方でこれらの実践の課題として挙げられるのは、「自分さえ安定した仕事につければよい」という自己本位なキャリア教育を脱し、より良い社会のためのキャリア教育（シティズンシップ教育としてのキャリア教育）を、中高で一貫して行なっていくことである。 本研究では、こうした研究動向と中高一貫校となった附属桃山中学校の状況を重ね合わせ、高等学校を見据えたシティズンシップ教育としてのキャリア教育の単元モデルを開発することを目的とする。この目的に向けて、複数の理論を統合したキャリア教育の単元の開発・検証を行い、附属を出発点としたキャリア教育の改革を促す。
井上 美鈴	附属桃山小学校	創造力を育むSTEAM教育～産学連携、小中大連携による持続可能な教材の開発	本研究は、STEAM教育を通じて小・中学生の創造力を育むことを目的とする。昨年度は、PILOT社と連携した「書くって大切なことプロジェクト」の動画化、日本理化学工業のキットパスを用いた窓ガラスアート、洛西紙工の端材を活用した段ボール造形、さらにドローンを活用したプログラミングと動画編集の授業など、企業との連携による多様な実践を附属学校内で行い、教材化を進めた。今年度は、それらの教材を他校や大学でも活用できるよう精選し、さらに新たな企業との協働体制を築くことで、持続可能なSTEAM教育モデルの構築を目指す。今年度は授業実践の成果を分析し、学習効果の検証やカリキュラム開発への応用も視野に入れる。
延原 理恵	家政科	人生100年時代のライフプランを考える教材開発—ライフコースの多様化と対話的な学びに視点をのせた授業実践—	高等学校家庭科においては、学習を通して人の生涯にわたる生活を理解し、多様な生き方を尊重しながら、自己の生き方を主体的に構想し、生涯を見通した生活設計能力を育成することが目指されている。しかしながら、「人生100年時代」といわれる現代、社会構造の複雑化や価値観の多様化に伴い、特に若年層における個人のライフコースは従来モデルから大きく変化している。本プロジェクトでは、大学と附属高等学校が連携し、このような現代的課題を踏まえた家庭科教育の実践的な在り方を探究する。具体的には、多様化するライフコースに対応しうる教材を開発し、対話的で深い学びを促す授業実践を行い、その教育的効果の検証を行うことを目的とする。
平井 恭子	幼児教育科	『就学前から架け橋期を見据えた教育課程の在り方について』第3年次	本テーマでの3年次研究である（内、プロジェクト経費採用は1年次）。これまでの研究では、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼児教育の実際を可視化し小学校へ発信し幼児教育の理解を図ったり、幼児期の育ちを附属桃山地区の共通理念である“自立と共生”の視点から捉えることを試みたりした。また幼小の教育観の共有や理解の推進、幼児児童の交流についても積み重ねてきた。これらの成果を踏まえ、本研究では、「架け橋カリキュラム（仮）」として、幼小接続カリキュラムの素案の作成を目指す。また、令和5年度より取り組んでいる未就園児の子育て支援プログラムについても、指導計画をまとめ、カリキュラムに反映していく。
原田 信一	産業技術科学科	技術教育における新たな価値を生み出す力を育成する課題解決型カリキュラムに関する研究	技術教育における「新たな価値を創造する力」を育成するため、生徒が「学ぶ喜び」を感じながら学習を進め、分かる喜びを感じるような方略を検討する。加えて附属学校としてプログラミング教育の、小・中・高各校種間連携・一貫教育推進について検討する。まず、生徒の実態把握・分析し、思考ツールとして教材開発、及び指導法を検討し、これまでの研究成果（対話的、深い学び）を軸に、児童生徒に「学ぶ喜び」を実感させるような課題発見・解決学習のカリキュラムを開発し、その有効性を明らかにする。研究成果は、学会等で発表、研究紀要等にまとめることで学校現場等に広く普及させ、京都教育大学及び附属学校としての使命を果たしていく。